

常染色体優性

多発性のう胞腎

をご存知ですか？

監修: JCHO仙台病院 腎センター 統括診療部長 佐藤 壽伸 先生

腎臓にのう胞が多数できる病気です

- ▶ 常染色体優性多発性のう胞腎(ADPKD)は、腎臓にのう胞(液体の詰まった袋)が多数できます。そしてそれが徐々に大きくなり、結果的に腎臓が本来の機能を失っていく病気です。
- ▶ 遺伝性の病気で、子供に遺伝する確率は50%です。
- ▶ この病気の人のうち半数は、70歳までに人工透析が必要になるといわれています。
- ▶ 30~40歳代までは、ほとんど症状があらわれないことが多いです。しかし、のう胞が大きくなるにつれて、お腹のまわりが大きくなることがあります。また、痛みや血尿、結石、感染症などがあらわれることがあります。



検査・診断は比較的簡単です

- ▶ 人間ドックや健康診断で初めてわかることがあります。
- ▶ いくつかの病気を合併することがありますが、高血圧になりやすいといわれています。
- ▶ 家族に同じ病気の人がいるかどうか、そして画像検査により診断できます(画像検査:超音波検査やCT、MRIなどがあります)。



2015年1月から難病指定されました

- ▶ この病気は、2015年1月1日から医療費助成を受けることができるようになりました。ただし、認定されるにはいくつか条件があるため、検査が必要です。まずは、診察を受けることをお勧めします。
- ▶ 腎機能を温存するための治療があります。詳しくは、医師へお問い合わせください。



まずはかかりつけの医師へご相談ください